

## 第16回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

### 報告書資料 一般-29

学校名・団体名	上越市立大手町小学校
HPアドレス	<a href="http://www.ohtemachi.jorne.ed.jp/">http://www.ohtemachi.jorne.ed.jp/</a>
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	体験活動と言語活動をつなぎ、資質・能力をはぐくむ
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>当校は文部科学大臣指定研究開発学校（本年が最終年度：5年次）として、「真の『自立』と『共生』を目指す教育課程の創造」をテーマとして実践研究を進めている。子どもに、これからの社会を切り拓いていく6つの資質・能力（「探究力」「情報活用力」「コミュニケーション力」「創造性」「自律性」「共生的な態度」）をはぐくむために、「生活・総合」「数理」「ことば」「創造・表現」「健康」「ふれあい」の6領域と子どもが6領域の学びを自ら統合する「学びの時間」による教育課程を編成・実施している。そして、教育課程を実施する上で「豊かな体験活動と言語活動のつながり」を大切にしている。とりわけ、教育課程の中核としている「生活・総合領域」での体験活動と、そこでの学びを振り返ったり、学びを意味付けたりする言語活動とのつながりを重視している。この「生活・総合領域」で重点的にはぐくむ「探究力」こそが、子どもに、これからの社会を切り拓いていく資質・能力を育成するための原動力になることがこれまでの研究で明らかにされてきた。そこで、本年は、この「生活・総合領域」のさらなる充実を図り、子どもの資質・能力育成を目指した教育課程の開発に取り組むこととした。</p>	

◇第1学年 テーマ:「いっしょに 大きく」

1年生は、子どもたちが、生き物に対して優しさ、思いやりの心を育ていけるように、中型動物(ヤギ)を飼った。さらに、今年は、「ヤギの出産に立ち会う」体験を子どもたちにさせたいと考え、妊娠をしているヤギを借りた。7月13日、ヤギは2頭の赤ちゃんを出産した。

出産当日、ヤギ小屋から聴こえるいつもと違う鳴き声。血を流しながら懸命に産む母ヤギの姿。必死に立ちあがって乳を飲む子ヤギの姿。新しい命の誕生を、小屋の周りで、みんな固唾を呑んで見守った。なかなか生まれない。なんとか出てきた赤ちゃんやぎを見て、思わず歓声が上がった。生まれた2頭の赤ちゃんヤギを見る子どもたちの目は、母親のように優しくなった。それ



からの飼育活動は、子どもたちとヤギのかかわりが変わった。生まれた瞬間から赤ちゃんヤギと過ごすことは、子どもたちがまるでお母さんヤギになったような気持ちになる。そして、それだけでなく、赤ちゃんヤギの一日一日の成長を感じるとともに、赤ちゃんヤギと「いっしょにおおしく」なっていく自分にも気付いていった。

また、1年生は、豊かな体験から生まれた「話したい」「書きたい」「伝えたい」という子どもの思いや願いを大切に、その思いを言語化することを通し、表現力の向上につなげている。1年生は、飼育しているヤギとの触れ合いが増えれば増えるほど、ヤギについての気付きやヤギへの思いが多く生まれてくる。そして、子どもは、

その気付きや思いを家族や友達、教師、他学年の子どもたちなど、身近な人へ「伝えたい」という思いをもつと考える。そこで、1年生は、年間を通して「ヤギさん絵本を書こう」という単元を設定し、ヤギについての気付きやヤギへの思いを書き綴っていくことにした。

日常の気付きや思いを書きためたカードから自分が伝えたいことを選ぶ。そして、そのカードを使い、絵本の文章を書く。その過程を繰り返して、ヤギの様子や自分自身の気付きや思いなどをより詳しく書こうとしたり、1年生なりに読み手を意識したりしながら言葉を考える子どもが増えてきた。子どもは、この「ヤギさん絵本を書く活動」を通して、自分だけが知っているヤギのことや思い出とともに、自分も「いっしょに」成長していった。



◇第3学年 テーマ:「まるごと高田」

3年生は、地域にあるお店や品物、働く人とのかかわりを深めながら、その魅力を捉えていった。そして、一年間の活動を通して、高田のきらめきについて、見方や考え方を更新し続ける子どもたちの姿を目指した。

子どもたちは、地域のもの・こと・人に支えられて日々を過ごしている。だからこそ、地域にあるお店や品物、働く人々と出会い、繰り返しかかわることを大切にしようと考えた。活動の中で、子どもたちは「地域の歴史あるお店や手作りの品物のよさ」「働く人の優れた技」「品物に込められた思いやこだわり」などを捉えていった。そして、高田のきらめきについて自分の考えをつくっていくことで、地域を好きになっていった。



高田のきらめきについて考えを深め、地域を好きになっていく子どもたちは、「伝えたい」という思いをもって、自ら必要感のある言語活動を始める。

そこで、子どもたちの思いの高まりに合わせて、「地域密着生活情報誌 まるごと上越！」編集者との出会いを設定し、取材や記事づくりのプロから自分たちの思いを効果的に表現する方法を学んだ。自分の見つけたきらめきを表現しようと20文字のキャッチフレーズや60文字の本文づくりに本気で挑む子どもたち。そこでは、言葉を吟味しながら推敲を重ねる姿が見られた。

また、フリーペーパーとして62,000部発行される「まるごと上越」に自分たちの記事が掲載されることで、反響の大きさを実感し、満足感や充実感を得ていった。それが、次の探究的な活動への原動力となる。体験活動と言語活動のサイクルが、子どもたちの力によって回り続け、一年間を貫く鍵となるのである。



「まるごと上越」10月号に、「きらめき」の記事が掲載されたことで、反響の大きさを実感した子どもたち。すると、「高田のきらめきをもっとPRしたい」「まるごと上越みたいな本を作って多くの方に配りたい」などの意見が出てきた。そこで、「まるごと上越」のスタッフに協力いただきながら、子どもたち一人一人が捉えた「高田のきらめき」の記事を載せた「まるごと高田 きらめき☆ブック」を自主製作し、1年間の学びの成果として形にしようと計画を進めた。

子どもたちは、こだわった高田のきらめき☆を記事にまとめた「きらめき☆book」の作成を進めるにあたり、おうちの方や地域の方に、自分たちのきらめきがどれくらい知られているのか調査もした。たくさんの方から生の声を聴き、「よかった！よく知られているんだ。」「あれ、こんなにいいものなのに意外と知らないんだ…。」様々な思いをもった。完成した「きらめき☆book」に出会った子どもたちは、このブックを手にとった人々にPRしようという気持ちになった。このような活動を通して、自分たちの住む町への思いを深めていった。



### ◇第5学年 テーマ：「食べること 生きること」

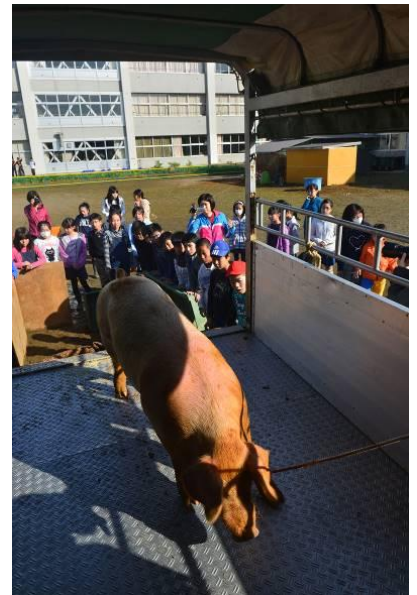
「食べ物に感謝して大切に食べる」。子どもたちにとって、それは既に知っている「当たり前」のことである。しかし、その「当たり前」の裏には、実はたくさんのお事実や立場や矛盾や想いが潜んでいる。

目の前に来る「食べ物」が、もともとは何であったのか。それが「食べ物」となって手元に届くまでに、どのような手がかけられ行われ、どのような矛盾や想いがあるのか…。「当たり前」といえる程ありふれたことなのに、多くのことを子どもたちは知らない。そして、それらを知らない限り、「当たり前」を問い直して考えることはない。

そこで、子どもたちが「食」に関わる様々なことを知り、「当たり前」を問い直して深く考えることができるよう、牛と豚の飼育を設定した。

牛も豚も食肉を目的とした飼育、つまり「家畜」としての飼育である。飼育活動を通して牛や豚への愛着は深まり、かけがえのない存在になる。しかし家畜である限り、「出荷」の時期を迎える。その時、子どもたちは「食べ物」が「命」であったという事実と痛みを知り、「当たり前」だと思ってきたことに自分事として向き合い葛藤する。そして様々な角度から「食」について考え、「自分の考え」を創っていく。

豚の出荷を経験した子どもたちは、改めて自分の「食」に対する考えを見つめ、それを深めようとしていた。本やインターネットで調べて新しい知識を得たり、身近な人の考えを聞いたりして行く。そして、「自分たちが知ったことを他の人にも伝えたい」「食に関わるお仕事をされている方がどんな想いでいるのか知りたい」という願いが生まれてきた。



子どもたちの願いが高まったところで、自分たちの知識や考えを発信し、専門家の想いを聞くことのできる機会、

「食のフォーラム」を開催した。自分たちが調べたことをチームに分かれて発表したり、専門家とパネルディスカッションをしたりすることで、子どもたちは「食」に関する新しい知識や考え方と「食に関わる人」の想いを、たっぷりと知ることができた。そして、そこを足場として、再び自問自答しながら自分の考えを創っていくとする。

せっかく知る知識も想いも、願いの高まり無しには、それを十分に受け止めることはできない。しかし、切実に知りたいと願った時、新たに知る全てのことが、子どもたちの既にもっている知識や考えと結び付き、子どもたちが自分の考えを創る助けとなってくれる。自分の知らなかった知識や考え方や様々な想いを知って、子どもたちの食への考えは、またひとつ深まっていった。



◆上記の3学年に限らず、当校では豊かな体験を確かな学びにつなげるために言語活動（書く・聞く・話す）を大事にしている。「体験」と「言語」のつながりを重視することで上記のように「～したい」という【探究力】を発揮しながら学ぶ子どもたちの姿が生み出される。【探究力】を発揮して学ぶ子どもたちは、様々な資質・能力（当校では6つの資質・能力）を発揮しながら自分の考えを深めていく。このように、一人一人の子どもが諸感覚を通して学ぶ「豊かな体験活動」を保障し、自分の考えを整理したり意味づけたりする「言語活動」をタイミングよく設定することが、資質・能力を発揮しながら学びを深めることに有効になることが、子どもの姿から確かめることでできた。